

陸前高田に新拠点

東北の被災地で宗門が行う仮設住宅への居室訪問活動の拠点として、このほど東北教区災害ボランティアセンター陸前高田出張所「とまり木」が岩手県陸前高田市に設置された。7月20日に開所式が行われ、園城義孝総長や教区関係者、活動の現地スタッフらが出席、支援活動推進の決意を新たにされた。また園城総長は19日、福島県の被災自治体や寺院などを訪問。宗門に寄せられた義援金を首長や住職らに伝達した。(8面に関連記事)



陸前高田市に宗門が開設した「とまり木」。園城義孝総長（前列中央）、所有地を貸し出した西條正夫さん（園城総長の左隣）らが出席して開所式が営まれた

宗門は一昨年の秋から宮城県の名取、岩沼市と陸前高田市の仮設住宅で、被災した人の心の内に耳を傾ける「居室訪問」活動を行っている。しかし、陸前高田市は住宅地の大部分が津波で流され、周辺に本派寺院もないため、相談員として本山から出向する職員と宿泊場所の確保や、現地相談員との打ち合わせもままならない状況が続いていた。活動の充実を図ろうと拠点となる事務所取得について検討していたところ、同市広田町の現地相談員・西條正夫さん（65）から津波で流された自宅前の店舗跡地の貸し出しの申し出があり、東北教区現地緊急対策本部が借り受け、ボランティアセンター出張所として事務所を設置した。開所式で園城総長は「『とまり木』は居室訪問活動の新たな拠点として、被災された方の悩みに寄り添う体制作りの新たな一歩。悲しみに寄り添い思いを分かちあう』支援を行うことで心と心のつながりが生まれ、被災地でのご縁が広がっていくよう活動を続けていきたい」と挨拶し、現地相談員らへ期待を寄せた。

同市で継続的に居室訪問を行う現地相談員は4人。震災前から行政の取り組みの一環として傾聴についての市民講座などを受けていたが、震災で講師が亡くなるなど

仮設の居室訪問活動支える出張所「とまり木」

して活動は途切れた。昨年夏、「もう一度集まって、地元のためにできることを」と西條さんらの呼びかけでメンバー数人が集合。傾聴ボランティア「こころのもり」を立ち上げた。

「活動方法を模索している時に、地元紙の記事で本願寺さんのボランティア養成講座を知った」と西條さん。昨年10月、メンバーと共に陸前高田市で開かれた宗門の養成講座を受講し、同センター現地相談員として居室訪問に加わった。

開所式後、活動の中心的役割を担ってきた本願寺派総合研究所の安部智海相談員を囲んで初のミーティングが行われた。同市に50力所以上ある仮設の訪問や事務所の活用方法などについて意見を寄せ合い、「まずは『とまり木』の存在と居室訪問を地域の方に周知することが大切」などと話し合っていた。

西條さんは「地元の人にはできなかったことを本願寺さんが助けてくれて本当に有り難い。一緒に活動して、大きな悲しみを背負う被災地の人にはお坊さんの存在が大きいことをあらためて感じた。この事務所を拠点に、故郷の役に立てるよう活動を続けていきたい」と話していた。